あとがき

世界遺産推進課内に富岡製糸場総合研究センターが設置されたのは2008(平成20)４月である。当センターは「富岡製糸場と絹産業遺産群」がユネスコの世界遺産暫定一覧表に追加記載され、特にその普遍的価値の検証が求められたことに伴い設置されたものであるが、当初スタッフは１名のみであった。

翻って富岡製糸場に関する研究等を調べて見ると、1972(昭和47)年度に富岡市が片倉工業株式会社の御協力のもとに「近代産業発祥百年祭」を行い、その発展事業として刊行した『富岡製糸場誌』が根本資料的な役割を果たしてきた。

その後も富岡市では『富岡市史』の編さん事業を行いながら製糸場関連資料の収集に努めてきたが、集積できた資料のみでは普遍的価値の検証には至らないという観点から富岡製糸場総合研究センターの設置を行ったものである。

設置年度（2008年）の主な事業は富岡製糸場に関する資料の収集、特に富岡製糸場の首長であったブリュナの出身地であるフランスのブール・ド・ペアージュに赴いて彼の出生記録の存在確認などを行った。

第２年度（2009年＝平成21年）にはスタッフが２名となり、富岡市がリヨンで開催したシルク関連事業を足掛かりとして当センターの職員を派遣し、主にブリュナに関する多面的な資料を収集し、これを執筆分担して刊行したのが『富岡製糸場のお雇い外国人に関する調査報告』である。

第３年度、つまり今年度はスタッフが３名となり、各人が執筆箇所を分担して刊行したのが本報告書である。

前述した如く、アダムズの第１次から第４次に亘る報告書に関する研究は管見ではあるが、まだ行われていないようであり、また報告書に見られる提言や要望等が富岡製糸場の設立に直接・間接的に影響していると考えた時、この刊行も製糸場の普遍的価値を検証するためには時宜を得ていると考えるものである。

今後の当センターの課題は世界遺産の本登録にふさわしい充実したスタッフの組織化とそれに伴うさらなる普遍的価値の検証を行うところにあると考えている。

そういう観点から、今後も資料集を着実に行いながら、資料に基づいた報告書を刊行していきたいと念願するものである。

富岡製糸場総合研究センター
所　長　今井幹夫

協　力

クリスチャン・ポラック氏　Monsieur Christian Polak

ユエット・ロラン氏　Monsieur Huet Roland

報告書作成担当者

富岡市教育委員会　世界遺産推進課

富岡製糸場総合研究センター　所長　今　井　幹　夫

課長補佐兼係長　結　城　雅　則

学芸員　岡　野　雅　枝